

下線部のあとには、「～ 時間」という表現が多数見られます。これらは、問にある「時計ではかれるもの」と「時計ではかれないもの」を対比しながら言い換えているもので、以下のように整理することができます。

「時計ではかれるもの」

「**量**としての時間」・「ただ流れるだけの時間」・「心がそこにこもっていない時間」・「自分にとって心を感じなかった時間」・「なかったのと同じくらいかるい時間」・「**量**としてとらえられた時間」・「無駄をして消えたはずの時間」

「時計ではかれないもの」

「中身のある生きた充実した時間」・「**質**としてとらえられた時間」・「もどってくることもある生きた時間」・「心を感じていた時間」・「心を感じる時間」・「自分が生きていることを実感することのできる時間」・「生きた時間」

したがって、**I**の答えが「量」で、**II**の答えが「質」です。

このように、説明的文章においては、対比や言い換えを整理して読み進めることが、正しい読解につながります。

[平成 23 年度出題]

正解 I. 量

II. 質